

5

東海ブロックのHIV医療体制整備 —愛知県HIV感染症医療推進会議の開催—

分担研究者 今橋 真弓

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター
感染・免疫研究部 感染症研究室室長

研究要旨

HIVと共に生きる人（以下PLWH）の生命予後は抗HIV療法の進歩等により大きく改善し、増加するPLWHおよび高齢化への対応が求められている。愛知県ではPLWHは名古屋医療センターに偏在している。関係医療機関・医療関係団体・行政関係が感染対策向上加算の枠組みを使って実務者および管理者で話し合う会議開催に向けて準備を行った。加算の枠組みを使用することで会議の継続性が高まることが示唆された。

A. 背景と研究目的

抗HIV療法の進歩などによりHIVと共に生きる人（以下PLWH）の生命予後は顕著に改善され、PLWHの増加および高齢化への対応が求められている。またPLWHに関する医療体制には令和3年3月11日付の国からの通知により①医療機関連携による長期的なエイズ治療提供体制の構築、②合併症に対応するための体制構築、③地域のエイズ治療体制の維持及び向上を通じて居住地においてPLWHが良質かつ適切な医療を安心して受けられるように現状に即した医療体制を整備することが求められている。愛知県のHIV感染者は当院に偏在しているが、PLWHの高齢化に伴い現状の体制では対応が困難になることが想定されることから、地域性を踏まえ、関係医療機関と密に連携してHIV感染症に係る医療体制を整備していく必要がある。本報告では愛知県HIV感染症医療推進会議の開催までの経過を記載する。

B. 研究方法

1. 実施体制

会議は定例（担当者）会議と代表者会議に分け、それぞれの会議の構成員と協議内容が異なる。定例（担当者）会議は主に実務者が参加する会議で、HIV感染症医療の連携に必要な事項について現場の課題を話し合う。一方、代表者会議は院長等管理者および東海北陸厚生局が参加し、定例会議で議題に上がった協議事項のうち、重点的に協議を行う必要がある事項を話し合う。（参照：図 黄色枠）

2. 実施方法

ステップ1：HIV感染者の受け入れ態勢を整備する

HIV感染症を題材としてエイズ治療拠点病院及び連携先の感染・対策向上加算2・加算3算定医療機関の院内感染対策の整備を行う。

ステップ2：HIV感染者の抗ウイルス治療提供体制を整備

職業感染（針刺し事故）発生時の抗HIV薬提供体制の確認を行い、地域における抗HIV薬の提供体制を整備する。

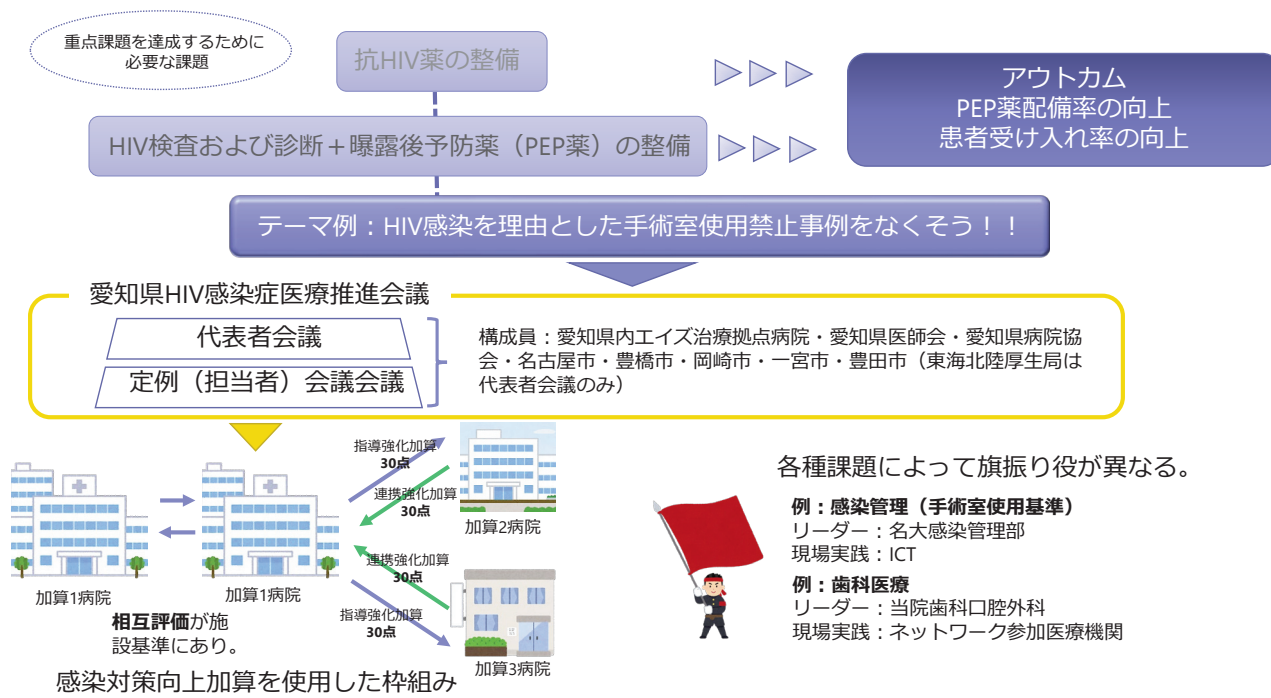
ステップ3：HIV感染者の長期療養体制の基礎を整備

抗HIV薬提供体制の充実・HIV感染者の緊急対応/合併症の対応可能な医療機関を拡大・HIV感染者の受け入れ可能な地域内の連携医療機関を拡大を短期目標とする。

ステップ4：広域にHIV感染者の長期療養体制を構築

ステップ3で達成できたスキームを広げていき、エイズ治療拠点病院の連携の下、HIV感染者の抗ウイルス療法以外の医療提供が可能な感染対策向上加算1算定医療機関等（エイズ治療拠点病院以外）を広げ、HIV感染症医療も地域で完結するよう体制を整備する。

例として愛知県で問題となっているHIV感染を理由とした手術室使用禁止事例を議題として取り上げる。（参照：図）この議題で問題となってくるのはHIV検査・診断および曝露後予防薬（PEP薬）の整備になる。PEP薬の整備に際し、次に抗HIV薬の整備が課題として出てくる。つまり、重点課題「HIV



図

感染を理由とした手術室使用禁止事例をなくす」ことを達成するために必要な課題が出てくる。これらの新たに出てきた課題に対応することで PEP 薬配備率の向上、患者受け入れ率の向上が期待される。

こういった課題はその内容によって旗振り役が異なる。手術室の問題については感染管理（手術室使用基準）の視点から、愛知県の場合だと中核拠点病院でもある名古屋大学附属病院の感染管理部が旗振り役となり、現場の実践は ICT が行う。歯科医療に関する課題であれば、旗振り役は当院の歯科口腔外科となり、現場実践は歯科ネットワーク参加医療機関が行うことになる。

3. 感染対策向上加算と会議開催の連携

これまでの感染防止対策加算による取り組みを踏まえつつ、個々の医療機関等における感染防止対策の取り組みや地域の医療機関等が連携して実施する感染症対策の取り組みをさらに推進する観点から要件が見直され、感染対策向上加算1～3と改訂された。各加算の施設基準の中に加算1施設は「保健所・地域の医師会と連携し、加算2又は加算3の医療機関と合同で、年4回以上カンファレンスを実施すること」とされている。また加算2及び3の施設は「年4回以上、加算1の医療機関が主催するカンファレンスに参加すること」とされている。加算1同士の病院間では相互評価が施設基準にある。加算

2/3病院と加算1病院間では指導強化加算や連携強化加算が算定できる。

C. 研究結果

2023年3月27日に Web 開催で行われる予定である。

代表者会議参加者：愛知県内のエイズ治療拠点病院の院長・愛知県医師会・愛知県病院協会・東海北陸厚生局・名古屋市・豊橋市・岡崎市・一宮市・豊田市

定例（担当者）会議：上記医療機関の実務担当者・愛知県医師会・愛知県病院協会・名古屋市・豊橋市・岡崎市・一宮市・豊田市

D. 考察

加算の施設基準と連携加算の仕組みを利用し、会議実施を行うことで、会議の必要性・重要性そして継続性が高まることが期待される。

E. 結論

愛知県における HIV 診療体制の構築のために、愛知県 HIV 感染症医療推進会議開催準備を行った。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

北海道HIV/AIDS医療者研修会（WEB開催）

1. 論文発表

2022年6月18日

- 1) Kawatsu L, Kaneko N, Imahashi M, Kamada K, Uchimura K. Practices and attitudes towards tuberculosis and latent tuberculosis infection screening in people living with HIV/AIDS among HIV physicians in Japan. *AIDS Res Ther.* Dec 3 2022;19(1):60. doi:10.1186/s12981-022-00487-8
- 2) Kawatsu L, Uchimura K, Kaneko N, Imahashi M. Epidemiology of coinfection with tuberculosis and HIV in Japan, 2012-2020. *Western Pac Surveill Response J.* Jan-Mar 2022;13(1):1-8. doi:10.5365/wpsar.2022.13.1.896
- 3) Matsuoka K, Imahashi N, Ohno M, et al. SARS-CoV-2 accessory protein ORF8 is secreted extracellularly as a glycoprotein homodimer. *J Biol Chem.* Mar 2022;298(3):101724. doi:10.1016/j.jbc.2022.101724
- 4) Mori M, Ode H, Kubota M, et al. Nanopore Sequencing for Characterization of HIV-1 Recombinant Forms. *Microbiol Spectr.* Aug 31 2022;10(4):e0150722. doi:10.1128/spectrum.01507-22
- 5) Ode H, Nakata Y, Nagashima M, et al. Molecular epidemiological features of SARS-CoV-2 in Japan, 2020-1. *Virus Evol.* 2022;8(1):veac034. doi:10.1093/ve/veac034
- 6) Shigemi U, Yamamura Y, Matsuda M, et al. Evaluation of the Geenius HIV 1/2 confirmatory assay for HIV-2 samples isolated in Japan. *J Clin Virol.* Jul 2022;152:105189. doi:10.1016/j.jcv.2022.105189

2. 学会発表

- 1) Mayumi Imahashi, Teiichiro Shiino, Noriyo Kaneko, Yoshiyuki Yokomaku, and Chieko Hashiba. Geographic and risk variation in transmission clusters of HIV testrecipients in Nagoya, Japan., IAS 2022, July 29-Aug 1, 2022, Montreal, Quebec, Canada
- 2) 今橋真弓. 「アンケート自由記載から読み取る検査を受ける側の本音」 【社会】シンポジウム2、第36回日本エイズ学会学術集会・総会. 2022年11月18日～20日（浜松）
- 3) 今橋真弓. 「PLWHと一緒に考える長時間作用型注射剤の位置づけ」 【基礎・臨床】シンポジウム9、第36回日本エイズ学会学術集会・総会. 2022年11月18日～20日（浜松）
- 4) 今橋真弓. 「行政とコラボして進めるHIV検査体制～iTesting Channelの試み～」令和4年度

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし